

新刊!

手話で育つ豊かな世界

—その子らしさを実現する支援・教育を求めて—



内容

- I. 当事者（本人・保護者）の立場から
社会人・大学生から幼児の保護者まで
44名の体験談を掲載
- II. 支援・教育の立場から
支援・教育を担当した10名の実践のまとめ
- III. 外部スタッフ・研究者の立場から
外部から支援した7名の論文・メッセージ



B5版 124頁 900円（税込・送料別）

全国早期支援研究協議会発行

手話で育つ豊かな世界

—その子らしさを実現する
支援・教育を求めて—



全国早期支援研究協議会

申し込み方法

宛先・冊数を書いて下記に送って下さい（郵便振替
用紙を同封。1,000円以上購入で当方振込料負担）

メール soukisien@yahoo.co.jp（事務局）

T/F 03(6421)9735（事務局・木島）

★5冊以上1割引、10冊以上2割引

<http://www.nanchosien.com> 難聴児支援教材
研究会のホームページからも申し込みできます。





手話がなぜ必要なのか、様々な教育実践から具体的に説明されている一冊です！
聴覚障害児教育の難しいところは、親の9割が聞こえる親であるために成人聴覚障害者の世界を知らないまま、我が子の教育方法の決定的な判断をしなければならないということにあります。
そしてその聞こえる親と最初に寄り添う専門家である医療関係者の多くもまた、成人聴覚障害者の「手話の世界」を知らないという現実もあります。（群馬大学教育学部教授 金澤貴之）

ろう児の教育になぜ手話が必要なのか。これに迫った書籍は耳鼻科の医学書ではほとんど存在しません。ことに耳鼻科医は、まず障害克服を中心にしか考えていないからです。なぜ手話が重要なのか、実際に聞こえない子供たちの意見を聞いてみたらどうでしょうか。何が重要なのかまずは自分の頭で考えましょう。この冊子は、そのための非常に価値ある一冊です。（耳鼻科医 平野浩二）

ソーシャルワーカーとしてろう・難聴の方々の相談支援をする際には、彼らの、言葉にできない思いに想像力を持ち、より深く理解しようと努力し続けることが求められます。本書は、ろう・難聴の方々のことを深く理解するための一助になると思います。教育関係者は言わずもがな、ろう・難聴者に関わるソーシャルワーカーにとっても必読の本です。（社会福祉士・手話通訳士 二神麗子）

音声を聞き取ったり話したりすることができないから手話を使うわけではありません。わかる手段は1つより2つの方がいい。これからの聞こえない子どもたちには、日本語と手話の2つの言語を獲得・習得することが、社会参加に絶対に欠かせません。この本では、聞こえない子どもたちが手話で幸せになる明るい未来の姿を力強く描いてくれています。手話か音声かの時代は終わりました。手話も音声も、です。（金沢大学学校教育学類教授 武居渡）

なんども繰り返されるのは「100%わかる言葉（手話）」の重要性。たとえ軽度の難聴でも音声言語のなかではたえず曖昧さのなかにおかれる。それがどれだけきついことか。メンタルの問題だけではなく、学びの面でも。子どもが聞こえないことがわかったら、すぐに手話で語りかけること。赤ちゃんでも。いや、赤ちゃんからが大切。（児童文学作家・森埜こみち）

ご自身の母語（＝日本語）ではなく他の言語で、毎日ご家族やご友人と話さなくてはならないという世界を想像したことはありますか。それがわたしたち聴覚障害者にとって「手話のない世界」です。自分たちにとって自然言語であり視覚言語である手話の獲得は、コミュニケーションや情報へのアクセスを100%可能にしてくれます。そして、アイデンティティーの確立と強く結びついています。この本には、ありのままの自分でいられる「手話の世界」で育った喜びが溢れています。（東京大学熊谷研究室ユーザーリサーチャー まきのまなえ）



全国早期支援事務局宛 FAX 03(6421)9735(木島) メール soukisien@yahoo.co.jp

必要冊数 ()冊

お名前

お届け先 〒

連絡先